

●STEP3 災害時のイメージを地図に落としてみよう！●

◆作業の流れ

- 1. 地図の下準備
- 2. 透明シートのセット
- 3. 基本図の作成
- 4. 避難経路の確認
- 5. 項目の書き出し
- 6. 津波被害の想定
- 7. 全体発表

◆用意するもの

- 地図
- 透明シート（ホームセンター等で購入）
- 油性ペン
- ベンジン、ティッシュペーパー（ビニールシートの書き込みを消すためのものです）
- その他
布テープ、ガムテープ、セロテープ、大きめのふせん紙、シール、模造紙など



1. 地図の下準備

用意した地図を机にセットし、セロテープ等で動かないように固定します。

2. 透明シートのセット

地図の上に透明シートを載せ、地図の4隅をシートに印付け（マジックで「 」を記入）、地図とシートの位置あわせのマークとします。シートを複数枚重ねて使うと便利です。（被害想定用のシート、被害案を書き込むシートなど）。この場合、片側だけをテープで貼れば、シートをめくり複数のシートを利用できて便利です。



ワンポイントアドバイス

シートは書いたり消したりできるので、失敗をおそれず、どんどん書き込みましょう！

3. 基本図の作成

油性マジックを使い、現在の市街地の位置や主要道路、広場、災害救援に関連する施設などをマークしながら、あなたの住む地区の特徴を確認します。前回の「まち歩き」でチェックした箇所などを思い浮かべながら、どこが危険でどこが安全かを話し合い、避難ルートや災害時に有益な場所などを書き込みます。

再度地域の特徴を把握してから、次のステップ「災害のシミュレーション」を行うことで、地域の被害に対する特性を深く理解できます。

【書き込みの例】

- 道路・鉄道・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・鉄道；黒色／道路；茶色
- 河川・水路等の水利・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・水色
- 避難場所やその代わりになる広い空間・・・・・・・・・・・・・緑色
→学校、公園、社寺仏閣、広い駐車場など
- 緊急避難のできる高い施設・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・紫色
- 病院・診療所・薬局など医療機関・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・青色
- 緊急時に物資が購入できそうな店・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ピンク
→ホームセンター・コンビニ・スーパーなど



4. 避難経路の確認

- ア、住んでいる場所をリーダーが任意に3～5軒程度決め、地図にマーキング（黄色シール）する。
- イ、通れそうにない（狭い、浸水する）道を地図へ書き込む。
- ウ、参加者の自宅から順番に避難場所への避難を全員で想定。（時間がなさそうなら、テーブルのまとめ役が任意に指定した人だけ行う）
- エ、各自の避難ルートを書き込む。（全員が通るべき安全なルート検証でもOK）この際、事前に「まち歩き」で調べている場合は、まち歩きマップから経路上に存在する危険な場所をチェック。



5. 項目の書き出し

以下の項目について、大きめのふせん紙に書き出します。参加者同士で重複があってもかまいません。

- ア、地域の特徴は？
- イ、地域の（防災・災害救援についての）プラス要素は？
- ウ、地域の（防災・災害救援についての）マイナス要素は？



6. 津波被害の想定

あなたとあなたの家族は安全に避難場所に到着しました。現在9:15です。まだ避難場所に
来ていない人たちもいます。

津波の到着予想時刻11:00との発表があったようです。〇月〇日(日)の〇〇の満潮時刻
15:41です。

- ア、津波被害のありそうな場所のマーキング。
- イ、ここの避難場所が安心かどうかをどうやって確認
しますか?
また、どうやってみんなに正しい情報を伝えます
か?
- ウ、避難場所へまだ来ていない一人暮らしのお年寄
り(リーダーがその家を赤シールで任意にマー
ク)が何人かいますがどうしますか?
また、人へ正しく情報の伝達する方法は?
- エ、(市への問い合わせ等で)ここの避難場所が安
全であることがわかりました。避難場所での役
割分担など、これからどのようにしますか?



7. 全体発表

参加者全員で意見を共有するため、話し合われた内
容について班ごとに発表し合ひましょう。

お互いの発表内容について、話し合う時間があると
良いでしょう。



【意見交換のテクニック】

◆ ふせん紙(ポストイット)を使った意見交換方法

与えられたテーマに沿って、自分の思いつくままに意見やアイデアを大きめのふせん紙に記入し、同じ意味や種類のモノなど、関連の強いモノ同士をグループ化して、その関連性などを考えるワークショップの手法です。(KJ法ともいいます)

意見や感想のとりまとめなど、参加者の自由な発想を引き出す手法で、各種のワークショップで使われる基本的な手法といえます。ふせん紙を使うことによって、普段から声の大きい人や自己主張の強い人、もの静かな人や女性など様々な人が、同じ立場で同等の関係を保ちながら意見交換することを目的とします。

もやもやとした考えやアイデアをよりはっきりとした形で整理・把握でき、みんなで意見や考えを出し合っ、班のアイデアを1つにまとめることができます。

1. 意見やアイデア等の書き出し

始めに、考えるテーマについて思いついたことを1つずつ1枚のふせん紙に書き出します。たくさん思いつくことがある場合、1つ1つその数だけふせん紙に書き出します。

2. 意見やアイデアの発表とふせん紙の分類

次に、書かれたふせん紙を分類します。

参加者全員が、順番に自分のふせん紙に書かれた内容を読み上げながら地図や模造紙に貼っていきます。

その時に、他の参加者の読み上げた内容と自分の書いた内容が同じような内容の場合、自分も同じような内容である旨を伝えて、先に貼った人の近くに自分の書いたふせん紙を貼っていき、その内容ごとに分類しながら全員のふせん紙がなくなるまで続けます。

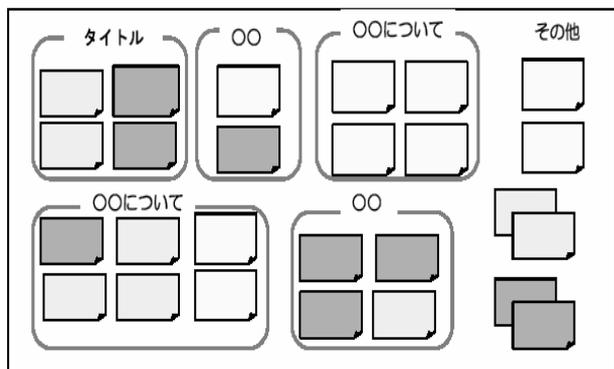
※ここで注意！！ 人の意見を否定するような発言はやめましょう！

3. 「見出し」付け

おおまかにグループ化ができれば、そのグループ全体を表わす「見出し」を付け、そのグループの意味を代表させます。

4. 意見、グルーピングの整理

それぞれの「見出し」を見渡しなが、グループ同士の関係やつながりの有無を考え、関係線を引いたりコメントやイラストを付けたり工夫しながら、わかりやすい図面に再整理します。



【自主防災活動 Q&A】

Q1. なぜ、自主防災活動が必要なの？

A1. 地震などの災害発生時には、個人や家族の力だけで対応することには限界があり、隣近所の人達が互いに協力し合うことが不可欠です。災害時はもちろんのこと、日ごろから、地域の皆さんが一緒になって防災活動に取り組むための組織、これが「自主防災組織」です。

自主防災組織は、大規模な災害が発生した場合、地域住民が的確に行動し、被害を最小限に止めるため、日ごろから地域内の安全点検や住民への防災知識の普及、啓発、防災訓練の実施など、地震被害に対する備えを行います。また、実際に地震が発生した際には、初期活動、被災者の救出、救助、情報の収集や避難所の運営といった活動を行うなど、非常に重要な役割を担っています。

Q2. 主な自主防災組織の活動は？

A2. 平常時の活動としては、地域内安全点検、防災組織の普及・啓発、防災訓練などがあります。また、災害時には、初期消火、救出・救助、情報の収集・伝達、避難誘導、避難所の管理・運営といった活動を行うなど、非常に重要な役割を担っています。

日頃の地域の把握や、ご近所のつながりが、いざという時に大きな助けとなります。

Q3. お金をかけない防災対策は？

A3. 購入しなくても防災に必要な品物をだれが持っているか把握しておき、いざというとき役立てる方法もあります。また、購入の場合でも、共同で買う、補助金で買う、さらに廃品回収などをして必要な物を買うなど、いろいろな方法があります。

地域で事前に話し合っておくことが必要ですね。

Q4. 新しいリーダーを育成するには？

A4. 任期を決めて何人もの人にリーダーを経験してもらうことやサブリーダーの設置、リーダー研修などによる若い人を育てることが大事です。また、普段の生活の中で信頼関係を養っていくことも大切なことです。

Q5. リーダーの負担を軽くするには？

A5. すべてをリーダーに任せるのではなく、多くの人に少しずつ役割を分けて「参加は多く、負担は軽く」を心がけると良いですね。

Q6. 若い人や子供、お母さんが参加するには？

A6. 小学校やPTAとの協働で楽しみながら参加できる防災マップづくりなどを行うのもひとつの方法です。自分達のこととして認識を持ってもらうとともに、大人から子どもまでが参加できる工夫も大切なことです。

Q7. つくった組織(班)をいざという時に役立たせるには？

A7. 定期的な訓練や勉強会により意識づけをしておくことが大切です。簡単な方法としては災害図上訓練(DIG)が具体的なイメージづくりには効果があります。また、正確な情報を伝達する連絡体制も整えておきましょう。

Q8. 他の団体や地域の企業に協力してもらうには？

A8. ちょっとした会合の時などに、他の地域の人や企業の人と防災について話し合う場をもつことができればいいですね。良く話し合ったうえで協力をお願いしていくことが必要です。

【防災グッズの紹介】

大災害が発生した場合、水道やガスが使えなくなったり、道路の破損により、防災機関による救援活動がすぐにできない可能性があります。近年、防災に対する関心が高まり、いろいろな防災グッズの商品開発がされています。

災害時に役立つ防災グッズの一例を紹介します。



非常持ち出し袋（外袋）	背負えるナップザック型で、耐熱、耐久性のある素材を使用。
非常用5年保存水	5年保存可能な水。
非常用5年保存食	乾パンや缶詰の他にも、お湯または水を注ぐだけでできあがるアルファ米（乾燥米飯）があります。五目ご飯やピラフなど種類も豊富です。保存期間5年間。
非常用簡易トイレ	吸水性ポリマーが排泄物を固形化させ、臭いも消します。
非常用ライト	水に濡れても大丈夫な懐中電灯。
水のいらないシャンプー	水を使用しないので、非常時に最適です。
万能サバイバルナイフ	ナイフ、ハサミ、ノコギリ、缶切り、栓抜き、ドライバー、ヤスリ、穴あけ等、サバイバルで必要となる機能をコンパクトにまとめた万能ナイフ。
携帯ラジオ	電池を必要としない手回しラジオが災害時には最適です。
非常用給水袋	水を入れると地面に置くことができ、消火や給水時に便利です。
固形燃料	マッチで簡単着火、燃焼2時間。倒れても延焼せず、再点火も容易です。
救急箱	使い慣れた常備薬や貴重品・小物入れとして。
ホイッスル（緊急用呼び笛）	身動きがとれない時、居場所が伝えるのに有効です。
レジャーシート	避難生活や防寒対策に使えます。
軍手	用途多数。救助、各種作業、防寒対策にも。すべり止め付き。
レインコート、カイロ	季節・時間・天候を問わずに訪れる災害。防寒対策は必須。
布ガムテープ	非常備蓄品として、ぜひ必要です。負傷時の一時的な止血にも役立ちます。
マスク	防塵に。避難所での感染症対策にも必須。
大型ポリ袋	防寒、防水等、用途多数の大型サイズ。非常時の万能品です。
ロープ、タオル、乾電池、紙コップ、紙皿、ティッシュ、マッチ、ロウソク	その他、避難生活に必須の各種消耗品。

玉野市自主防災ワークショップ報告書
- 備前県民局協働事業 -

自分を守る、互いに助けあう、地域防災への取り組み

発行日 ; 平成18年3月

発行 ; NPO法人 まちづくり推進機構岡山
玉野市
玉野市消防本部
岡山県備前県民局

編集 ; NPO法人 まちづくり推進機構岡山
700-0822 岡山市表町1-4-64 301
TEL 086-803-3361 FAX 086-803-3362
E-mail : machiken@amber.plala.or.jp
URL : <http://www.ubusuna.jp>
